

ホームページでもIR情報を公開しています。

当社の情報をスピーディーにご提供するために、ホームページを開設しております。
「最新機種紹介」「社長プレゼンテーション」等もあり、投資家の皆様への情報も充実させておりますので、ぜひご覧ください。

● ニュースリリース



● 財務情報



● 投資家の皆様へ



● 決算説明資料



● 製品紹介



● 会社概要



● FAQ



タイヨーエレクト株式会社

名古屋市西区見寄町125番地

TEL052-502-9222 (代) <http://www.taiyoelec.co.jp/>

第34期中間報告書

平成18年4月1日～平成18年9月30日

TAIYO ELEC



JASDAQ
証券コード：6429



タイヨーエレクト株式会社

株主・投資家の皆様へ

株主および投資家の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

当中間期のわが国経済は、原油をはじめとした原材料価格の高騰などの不安材料があるものの、企業収益の改善や設備投資の増加などにより総じて堅調に推移しました。しかしながら、一方で個人所得環境は先行き不透明感が払拭されず、消費マインドの本格的回復には至っていない状況であります。

当パチンコ業界におきましては、大型店舗の新規出店の増加に加え、パチンコホールの顧客であるプレイヤーの獲得のための積極的な新機種導入などにより、機械の需要は堅調に推移しました。反面、ホール店舗数ならびにプレイヤー人口は引き続き減少傾向であり、依然としてホール様の経営環境は厳しい状況が続いております。したがいまして、業界をあげて実施しております、ライトユーザー向けの「手軽に安く遊べる機械」の導入推進による新たなプレイヤーの掘り起こしや、ホール様のニーズに対応した機械の開発などが業界全体の大きなテーマとなっております。

このような状況のもと、当社は、低射幸性のスペックの機械および値ごろ感のある機械などを積極的に市場投入してまいりました。

パチンコ機につきましては、新機種として「CR 大陸物語」（平成18年5月発売）、「CR 超神の剣」（平成18年7月発売）、「CR 五右衛門CX（ハネデジタイプ）」（平成18年7月発売）等、オリジナルアニメキャラクター機およびライトユーザー向けのハネデジタイプを中心に販売しました。これら当社のハネデジタイプにつきましては、導入されたホール様からは高い評価をいただいておりますが、発売時においては、まだ認知度の低いスペックであったため、1契約当りの販売台数が減ったことおよびパチンコ枠のフルモデルチェンジのため、工場ライン改造による1ヶ月間の生産を停止したことにより、販売実績は伸び悩みました。また、すでに適合済みの新規則5号機のパチスロ機について今上期に販売する予定で計画しておりましたが、パチスロ市場においてほとんど新規則5号機への入替が進んでいない市場動向を鑑み、営業戦略的に下期以降に販売を延期いたしました。その結果、当中間期における販売実績はパチンコ機販売台数1万8千台、売上高37億36百万円（対前年同期比 58.0%減）と前中間期を下回りました。

また、利益面につきましては、下期においてホール様に対して、「CR 五右衛門SR」青シャチ特製バージョンを破格な特別価格により販売予定であります。それにともない原材料の評価損2億51百万円を前倒し計上したことに加え、研究開発費についても、今後の開発競争の更なる激化が予想されるなか、逸早くニーズを取り入れることが最重要との考えから、開発計画に基づきパチンコ機とパチスロ機の同時開発を積極的に行なってまいりました結果、経常損失11億47百万円（対前年同期比 9億90百万円悪化）、中間純損失11億83百万円（対前年同期比 10億20百万円悪化）となりました。

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、27億1百万円（前中間会計期間比 92百万円増）となっております。当中



代表取締役社長

佐藤 英理子

間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は5億1百万円（前中間会計期間比 2億22百万円悪化）であります。これは主に、売上債権の減少額49億48百万円および減価償却費1億52百万円であったものの、仕入債務の減少額38億11百万円、税引前中間純損失11億77百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は2億29百万円（前中間会計期間比 1億69百万円悪化）であります。これは主に、有形固定資産の取得による支出2億7百万円、定期預金の純減少額30百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は11億7百万円（前中間会計期間比 13億31百万円悪化）であります。これは主に、短期借入金の純減少額8億円、配当金の支払額2億20百万円によるものであります。

通期の見通し

当パチンコ業界につきましては、パチンコ機は、既存のファン層の減少の抑制に加え、新たなファンの育成・開拓が課題として残る厳しい環境ではありますが、大型店舗の新規出店、新機種導入のサイクルの短縮化などによりパチンコ機の需要は底堅く推移すると見込まれます。

また、パチスロ機につきましては、現在設置されている旧規則機の設置期限切れに合わせ、順次、新規則5号機への大量入替需要が生ずると見込まれますが、ホールの資金ニーズに合せた多様な販売戦略による価格競争が激化するとともにメーカー間のパチンコとパチスロのボーダーレス化が進むものと見込まれます。

このような状況のもと、パチンコ機につきましては、下期よりパチンコ枠において業界トップクラスのビジュアル性、サウンド性および遊技領域を誇る盤面の「ラルース枠」にフルモデルチェンジしたうえで認知度の高い国内外の大型版權を使用したパチンコ機を下期において連続的に市場に投入してまいります。

また、パチスロ機につきましても、新規則5号機への移行のタイミングを見定めたくえ下期に当社の新規則5号機をホール様の資金ニーズに応じた当社独自の販売戦略を準備したうえで市場へ投入してまいります。

以上により、通期見通しにつきましては売上高242億円、経常利益8億90百万円、当期純利益4億50百万円を見込んでおります。

なお、配当方針の変更はありません。

株主および投資家の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

経営の基本方針

当社は、「常にバイオニア精神を持ちつづけ、ゆるぎなきアイデアと開発力を駆使し、エンターテインメントとしての商品づくりを通して、明るく豊かな社会づくりに貢献します」という経営理念のもと、様々なスタンスから娯楽を研究、熟知し、パチンコ・アレパチ・パチスロファンおよび遊技場のニーズを常に先取りした斬新かつ優れた商品をお客さまに提供し、健全なレジャー産業の発展に寄与することを通して社会に貢献することを経営の基本方針としております。

●中間貸借対照表 (単位 / 百万円)

科 目	第33期中間期 平成17年9月30日現在	第34期中間期 平成18年9月30日現在	第33期 平成18年3月31日現在
資産の部			
流動資産	7,153	7,921	14,851
固定資産	3,534	4,193	3,725
有形固定資産	2,474	3,131	2,636
無形固定資産	45	43	38
投資その他の資産	1,014	1,019	1,050
資産合計	10,687	12,115	18,577
負債の部			
流動負債	7,472	7,654	12,834
固定負債	797	2,407	2,340
負債合計	8,270	10,061	15,174
資本の部			
資本金	950	—	950
資本剰余金	992	—	992
利益剰余金	323	—	1,286
^① 其他有価証券評価差額金	151	—	175
自己株式	△0	—	△1
資本合計	2,417	—	3,402
負債・資本合計	10,687	—	18,577
純資産の部			
株主資本	—	1,922	—
資本金	—	1,000	—
資本剰余金	—	1,042	—
利益剰余金	—	△118	—
自己株式	—	△1	—
評価・換算差額等	—	130	—
純資産合計	—	2,053	—
負債・純資産合計	—	12,115	—

(注)「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を当中間期より適用しております。

●中間損益計算書 (単位 / 百万円)

科 目	第33期中間期 平成17年9月30日 自 至	第34期中間期 平成18年4月1日 自 至 平成18年9月30日	第33期 平成17年4月1日 自 至 平成18年3月31日
売上高	8,906	3,736	18,678
売上原価	6,802	2,966	13,559
売上総利益	2,103	770	5,119
販売費及び一般管理費	2,247	1,909	4,284
営業利益	△144	△1,139	834
営業外収益	13	27	97
営業外費用	26	35	69
経常利益	△157	△1,147	861
特別利益	9	30	9
特別損失	9	60	24
税引前中間(当期)純利益	△156	△1,177	846
法人税、住民税及び事業税	5	5	46
中間(当期)純利益	△162	△1,183	800
前期繰越利益	292	—	292
中間(当期)未処分利益	130	—	1,093

●中間キャッシュ・フロー計算書 (単位 / 百万円)

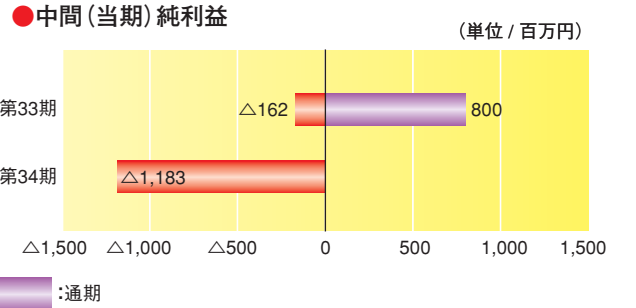
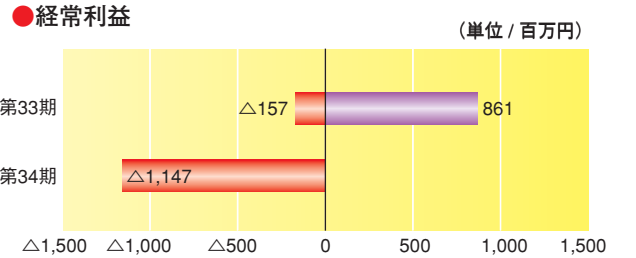
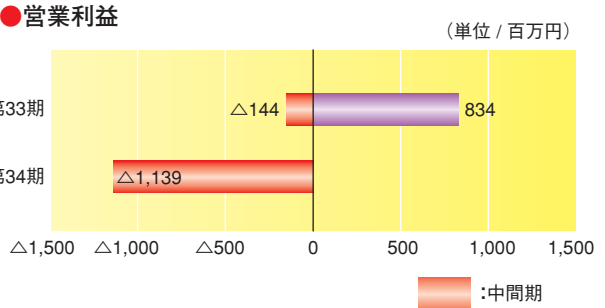
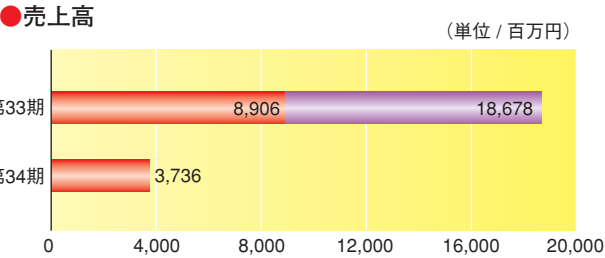
科 目	第33期中間期 平成17年4月1日 自 至 平成17年9月30日	第34期中間期 平成18年4月1日 自 至 平成18年9月30日	第33期 平成17年4月1日 自 至 平成18年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△278	△501	121
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60	△229	△416
財務活動によるキャッシュ・フロー	223	△1,107	2,111
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△115	△1,838	1,816
現金及び現金同等物の期首残高	2,723	4,540	2,723
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	2,608	2,701	4,540

●中間株主資本等変動計算書

当中間期(自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日) (単位 / 百万円)

	株主資本							評価・換算差額等	純 資 産 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評 価 差 額 金	
		資本準備金	利益準備金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
平成18年3月31日残高	950	992	192	1,093	1,286	△1	3,227	175	3,402
中間期の変動額									
新株の発行	50	49	—	—	—	—	100	—	100
剰余金の配当	—	—	—	△221	△221	—	△221	—	△221
中間純利益	—	—	—	△1,183	△1,183	—	△1,183	—	△1,183
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△0	△0	—	△0
株主資本以外の項目の 中間期の変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	—	△45	△45
中間期の変動額合計	50	49	—	△1,404	△1,404	△0	△1,304	△45	△1,349
平成18年9月30日残高	1,000	1,042	192	△311	△118	△1	1,922	130	2,053

(注)「株主資本等変動計算書に関する会計基準」(企業会計基準第6号 平成17年12月27日)及び「株主資本等変動計算書に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第9号 平成17年12月27日)を当中間期より適用しております。



2006年度上期の主なトピックス

- 5月16日 「スター・トレック40thプロジェクト」
全米放送開始40周年記念共同記者発表会
- 6月5日 パチンコ新機種「CR大陸物語」ホール開店
- 8月1日 イートレックジャパン株式会社の株式を追加取得
- 8月1日 1単元の株式数を1,000株から100株に変更
- 8月1日 パチスロCS機（カード対応パチスロ機）の適合を発表
- 9月4日 パチンコ新機種「CR超神の剣」ホール開店

CR大陸物語

平成18年5月9日(火)に、東京支店ショールームにてパチンコ新機種「CR大陸物語」のプレス発表会および内覧会を開催、本社および各支店、営業所ショールームにて内覧会が開催されました。



CR超神の剣

平成18年7月20日（木）に、東京支店ショールームにてパチンコ新機種「CR超神の剣」のプレス発表会および内覧会を開催、本社および各支店、営業所ショールームにて内覧会が開催されました。



手軽に安く遊べるパチンコ・パチスロ展示会

平成18年10月21日（土）、22日（日）に、「池袋サンシャインシティコンベンションセンター 展示ホールC（東京都豊島区）」において、「手軽に安く遊べるパチンコ・パチスロ運営委員会」主催による「手軽に安く遊べるパチンコ・パチスロ展示会」が開催され、パチンコ新機種「CRスタートレックACX」が展示されました。



CRスタートレック

平成18年10月2日（月）、3日（火）、6日（金）に、新枠「LALUZ（ラルース）」第1弾となるパチンコ新機種「CRスタートレック」の発表会を開催しました。また、10月5日（木）に、つくば国際会議場で展示会を開催し、10月4日（水）より各支店、営業所ショールームにおいて内覧会が開催されました。



①研究開発活動の強化

当社は「コーポレートブランドの確立」を目指し、パチンコ機・パチスロ機の新機種の企画開発について、ビジュアル性・サウンド性・ゲーム性・オリジナル性を重視、クオリティの高い機種開発を積極的に推進してまいります。

また、自社開発チームに、提携先であるイトレックジャパン株式会社が加わることで、開発期間の短縮や、今まで以上にゲーム性豊かでクオリティが高く、多様なバリエーションのある企画開発を行なうことが可能となり、年間発売機種数の増加と安定的に市場投入できる体制が確立できるものと考えております。また、開発企画段階から部品の共通化などさらに強化し、製品原価コストを削減することにより、市場ニーズに見合う価格帯を実現し、機種開発の構成にメリハリをつけることを図ってまいります。さらに、「手軽に安く遊べる」パチンコ機・パチスロ機の開発をスピードと機動力をもって推進するとともに、新たな取り組みとして主要なニーズを複合的に組み合わせたターゲット層の広いバランスの整った機種の開発を目指してまいります。特許部門につきましても、新しい企画開発をさらに進めることにより有効特許取得を積極的に行なってまいります。

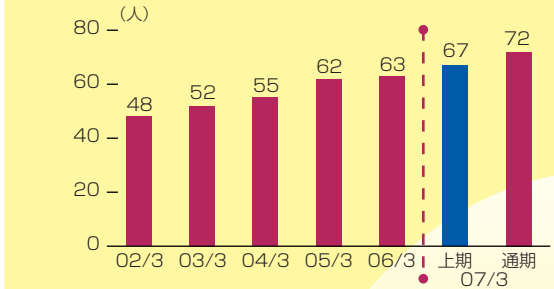
以上のことを強力に推進するため、開発部門については、将来への成長のための先行投資を含め経営資源を重点的に集中投下してまいります。

②営業活動および顧客サービスの強化

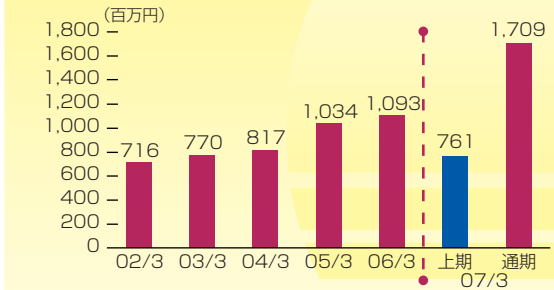
直販につきましては、すでに平成17年4月より導入した、モバイル端末により、動画を含めた最新の営業情報を顧客に提供することで営業活動を強化してまいりました。今後は、モバイル端末を通じて市場からの情報を集約し、企画にフィードバックすることにより、きめ細かいニーズに対応できる総合マーケティング戦略を構築し、市場ニーズの変化のスピードアップに対応することにより顧客基盤の拡充を目指してまいります。また、代行販売につきましても、フレンドシップを共有する厳選した代行店の増強を図り、販売の拡大を目指してまいります。

販売促進策につきましては、当社商品の露出度を大幅にアップさせることにより、パチンコファンの認知度を上げ、あわせてタイヨーエレックブランドのイメージアップを進めてまいります。

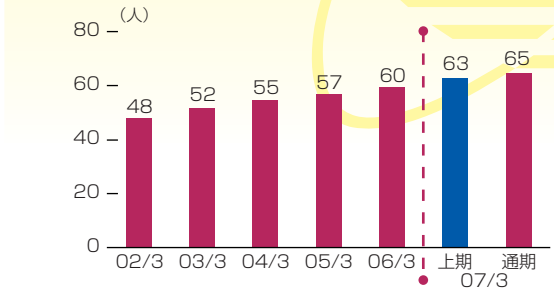
研究開発部門スタッフ数の推移



研究開発費の推移



営業スタッフ数の推移



③リスク管理の強化

当社はリスク管理体制の強化を図るため、平成18年2月より内部統制委員会を設置しております。内部統制委員会では、各部門で個別に管理していたリスクを統括的に管理するとともに、全社的視点から内部統制システムおよびコンプライアンス体制等の再構築を推進し、経営体制の強化を目指してまいります。

④品質管理およびセキュリティの強化

当社は製品の品質向上を図るため、品質管理セキュリティ委員会をもうけ、組織として研究開発本部内に開発品質管理室を、製造部内に製造品質管理室をそれぞれ設置して、開発段階における品質管理と量産体制下における品質管理を行っております。セキュリティに対する関心およびリスクが高まるなか、開発における品質およびセキュリティ基準の厳格化とセキュリティ設備の増強、さらに検査基準の強化と充実を図り、品質管理とセキュリティの両面で、より一層のブランド価値向上を目指してまいります。

⑤リサイクル・リユースの推進

当社は従来より循環型社会における社会貢献の一環として、リサイクル・リユース技術の構築を推進してまいりました。今後、リサイクル・リユースに対応した新機種の開発・供給システムの確立を目指し、リサイクル率の向上を図ってまいります。

⑥人材育成の強化

当社は、成果主義型の目標管理制度を基本とした人事制度に基づき、成果に応じた実力ある若手人材の起用を推進することで、組織の活性化を図っております。また、コンプライアンス強化および経営環境の変化に柔軟に対応できる人材育成のため、個性ある社員教育を継続実施しております。今後も、顧客サービスの向上および全社的なコンプライアンス意識の高揚を図るため、研修内容を充実してまいります。

●会社概要

平成18年9月30日現在

会 社 名	タイヨーエレック株式会社
本 社 所 在 地	名古屋市西区見寄町125番地
設 立	昭和48年7月11日
資 本 金	1,000,501,344円
事 業 内 容	パチンコ機・パチスロ機の開発、製造、販売
従 業 員 数	201名
主要取引先銀行	株式会社 第三銀行、株式会社 三菱東京UFJ銀行 株式会社 名古屋銀行、株式会社 三井住友銀行 株式会社 中京銀行、株式会社 十六銀行 中央三井信託銀行 株式会社
加 入 団 体	日本遊技機工業組合

●役 員

平成18年9月30日現在

代表取締役会長	佐 藤 昭 治
代表取締役社長	佐 藤 英 理 子
常 務 取 締 役	三 宅 昇 吾
取 締 役	加 藤 浩 二
取 締 役	山 本 國 昭
常 勤 監 査 役	神 田 廣 太 郎
監 査 役	犬 飼 勲
監 査 役	古 田 五 百 三
監 査 役	正 村 俊 記
上 席 執 行 役 員	池 田 憲 治
上 席 執 行 役 員	筒 井 雄 次
執 行 役 員	納 富 康
執 行 役 員	佐 藤 真 朗

●ネットワーク

平成18年12月15日現在

本社・本社工場	名古屋市西区見寄町125番地	TEL (052) 502-9222 (代)
札幌支店	札幌市東区北7条東3丁目28番32号 井門東ビル2階	TEL (011) 753-2022 (代)
仙台支店	仙台市太白区泉崎2丁目25番15号 早川ビル1階	TEL (022) 743-2276 (代)
千葉支店	千葉市中央区中央1丁目7番8号 シグマビル4階	TEL (043) 201-3088 (代)
東京支店	東京都台東区東上野2丁目20番1号 晴花ビル1階	TEL (03) 3833-0244 (代)
横浜支店	横浜市西区北幸1丁目5番4号 三協ビル5階	TEL (045) 317-4788 (代)
名古屋支店	名古屋市西区見寄町125番地	TEL (052) 506-2656 (代)
大阪支店	大阪市浪速区元町1丁目11番16号 ヴォンジョルノ難波1階	TEL (06) 6633-7677 (代)
福岡支店	福岡市博多区博多駅東3丁目4番10号 コマバビル1階	TEL (092) 437-5155 (代)
神戸営業所	神戸市中央区磯辺通3丁目2番11号 三宮ファーストビル1階	TEL (078) 231-0051 (代)



本社社屋

●株式データ

平成18年9月30日現在

発行可能株式総数……………41,800,000株
発行済株式の総数……………11,159,832株
株主数 ……………889名

大株主

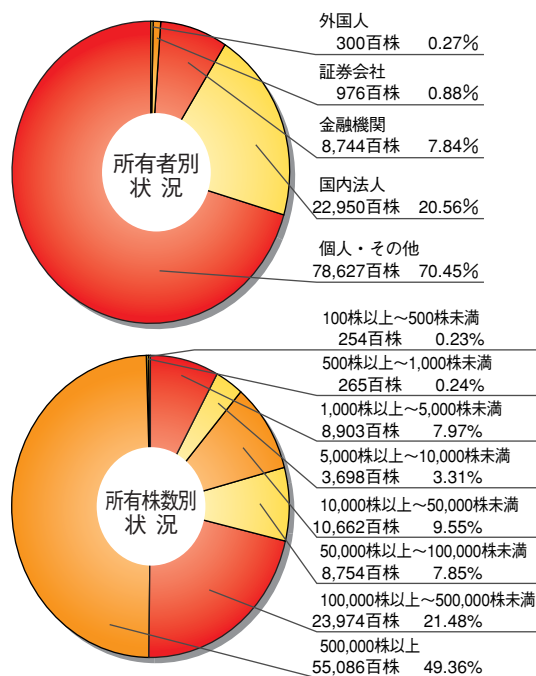
株 主 名	当 社 へ の 出 資 状 況	
	持 株 数	出 資 比 率
	百株	%
佐 藤 英 理 子	26,197	23.47
株式会社 サン・ライン	18,500	16.57
佐 藤 昭 治	10,389	9.30
佐 藤 麻 奈 美	4,640	4.15
三 宅 亜 紀	3,500	3.13
柏 原 俊 高	2,715	2.43
佐 藤 照 子	2,385	2.13
株 式 会 社 第 三 銀 行	2,220	1.98
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,500	1.34
安 井 一 俊	1,335	1.19

(注) 株式数は百株未満、出資比率は小数第2位未満を切り捨てて表示しております。

●株主メモ

事 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 確 定 基 準 日	期末配当 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日 その他必要ある場合はあらかじめ 公告いたします。
株 主 名 簿 管 理 人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 (〒460-8685) 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部 TEL 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

●所有数別統計表



(注) 株式数は百株未満を切り捨てて表示しております。

お知らせ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル 0120-87-2031 で24時間受付しております。